九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[015] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10255

出版情報：語文研究. 15, 1962-12-31. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

語文研究所載論文一覧

第一号（昭和26・3）

藤村とシェイクスピア　笹淵友一
興福寺本霊異記訓釈考　平井秀文
万葉植物の様相　永井寛
平仲説話の展開と平仲物語　目加田さくを
浄瑠璃の一限界　横山正
形容詞を構成する一二の接尾語について
—特に序詞の使用について—　秋山正次
去来の一句の解釈　橋本元二郎
伝中御門宣秀筆金葉和歌集　石井和男
書評
笹淵友一著「北村透谷」　重松泰雄
高木市之助著「湖畔」を続む立　川昭二郎
（品切）

第二号（昭和30・5）

人麻呂長歌の修辞研究　岡本庸子
落窪物語の笑ひ　大原一輝
仏教的と非仏教的
—今日平家物語をどう続むべきかの問題に関連して—　井手恒雄
近松の姦通浄瑠璃　横山正
あゆひ抄の「立居」と「本」　佐田智明
徳富蘆花と社会主義　寺園司
芭蕉連句評釈(一)　杉浦正一郎
—「うぐひすに」の巻（下）—
（送料共一二〇円）

第三号（昭和30・11）

倭建の命は天皇か　福田良輔
—古事記の用字法に即して—　森山隆
芭蕉と自然
—一つの手がかりをもとに—　大内初夫
九州野坡門の研究
—その形成の時代—　鶴久
「天霧之」の訓について　東秀吉
琅代語「からに」について　日和男
徒然草第五十六段末尾の解釈春
—ざえある人はその事—　杉浦正一郎
芭蕉連句評釈(一)
—「うぐひすに」の巻（上）—
（品切）

第四・五号（昭和31・10）
開講三十周年記念特輯

国語の母音同化　春日政治
あの頃　高木市之助
小宮氏本新古今集その他　小島吉雄
女にて見奉らまほし　笹淵友一
五七調の成立について　瀬古確
九州西南部方言における長母音について　上村孝二
「浜風爾……紐吹返」考　黒岩駒男
成簣堂文庫本・遊仙窟について　平井秀文
「あはれ」の再検討　井手恒雄

―中世歌僧の論を兼ねて―　重松泰雄
世話浄瑠璃表現と芸風　横山正
「現代かなづかい」私案　矢野文博
続本作家の構成能力の問題　目加田さくを
―桜姫全伝曙草紙をよすがとして山東京伝の場合―　大内初夫
芭蕉と寿貞・次郎兵衛　大内初夫
万葉集における語・告・謂・言の訓　鶴久
―表記意識と用字法との関連において―
「邪宗門」の南蛮詩と李太郎　重松泰雄
元永本古今和歌集の書写に関する一問題　春日和男
志賀白水郎歌十首の歌謡性　福田良輔
―憶良の単独創作説を疑ふ―
（送料共二三〇円）

第六・七号〔昭32・12〕
故杉浦正一郎教授追悼号
故杉浦教授追悼号によせて　福田良輔
俳人諸九尼の生涯
―なみ女の頃―　大内初夫
「おくのほそ道」板行以前の反響
―影響史の序説―　白石悌三
伊勢物語の章段配列に関する一考察
―助動詞の用法から―　達藤康子
中世歌学書に見える言語意識の性格　佐田智明
上代における母音音節の脱落について　森山隆
二葉亭四迷の現実意識　立川昭二郎
狭衣の道心　大原一輝
心敬と自然美　井手恒雄
―彼の反仏教的発想への理解の試み―
万葉集における有情とその存在の表現
―「ゐる」「をる」を中心として―　瀬良益夫
万葉集に於ける虚字の効用　瀬古確
正安本「義孝集」翻刻と校異今　井源衛
（送料共二三〇円）

第八号〔昭34・2〕
「浄瑠璃蟬磨呂」と「蟬丸」横山正
万葉集における対句の場合の訓について　鶴久
上代におけるエ列乙類の性格森山隆
書評
野村望東尼全集を読む　春日政治
雀淵友一著「浪漫主義文学の誕生」　杉浦正一郎著「芭蕉研究」　大内初夫
細川文庫目録　（品切）

第九号〔昭34・9〕
宝暦明和の大坂騒壇　中村幸彦
―列仙伝の人々―
旅人の表現　瀬古確
―特にその孤独をめぐって―
風土と用字　八木毅
―上代における「湖」について―
いわゆる説話文学の文学的価値　井手恒雄
蕉風俳諧美の理念についての一考察　田尻竜正
―さび・しをり・細みについて―
露伴と鷗外　瀬里広明
―観画談と寒山拾得―
漱石における自然　立川昭二郎
語彙「肥前から薩摩へ」　上村孝二
（送料共一二〇円）

春日政治博士八十賀記念訓点特集

高野山西南院蔵「和泉往来」について　遠藤嘉基
平安朝初期の訓点語に用ゐられたスラとダニ　大坪併治
トキとトキニの訓点　中田祝夫
漢文訓読語に於ける係助詞に就いて　築島裕
遊仙窟「菅家本」考　平井秀文
カクノゴトシといふ熟語の訓読性
―訓点語と今昔物語集の用例二三―　春日和男
（送料共一七〇円）

第十一号（昭35・9）

源氏物語奥入の成立について今　井源衛
―待井説に賛成する―
花山院の「花見る人」の歌　井手恒雄
―日本文芸史における無常観の克服・補遺―
沽徳年譜追考・京極高住の俳諧について　白石悌三
人麻呂歌集訓詁二題　鶴久
日本霊異記の「所」字について　上代における力行音の清濁表記について　原口裕

書評

井手恒雄著「日本文芸史における無常観の克服」　今井源衛
（品切）

第十二号（昭36・4）

万葉集に於ける雑歌の表現　瀬古確
柘枝伝考　目加田さくを
「辨篇突集」について　大内初夫
―「旅寝論」の一異本―
「千曲川のスケッチ」文体試論　重松泰雄
小林秀雄とベルグソン　瀬里広明
―「近代絵画」を中心として―
近世初期儒学者の言語観　佐田智明
―テニヲハ観との関連において―

紹介

大内・飯野・阿部編「湖白庵諸九尼全集」　白石悌三
（品切）

物語と小説についての覚え書　淵友一
とりかへばや物語の世界　大原一輝
平家物語覚一本とその伝承　笠栄治
海音関係丸本の奥書とその意義　横山正

紹介

万葉集の枕詞「霰零」「丸雪降」はアラレフリかアラレフルか　福田良輔
中村幸彦著「近世作家研究」白石悌三
中村幸彦著「近世小説史の研究」　田中道雄
（送料共一七〇円）

第十四号（昭37・5）

連濁―上代語における―　森山隆
松平文庫本蜻蛉日記について　丸妙子
芭蕉の発句推敲覚書　石川八朗
翻刻「西俗湖月抄　草案」　田中道雄
（送料共一七〇円）